

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「土佐日記～門出～」問題

男も^①すアなる日記と^②いふものを、女も^③して^④みイむとて、^⑤するウなり。

その年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に門出^⑥す。その由、いささかにものに
^⑦書きつく。

ある人、県の四年五年^⑧果てて、例のことどもみな^⑨し終へて、解由など^⑩取りて、^⑪住む館
より^⑫出でて、船に^⑬乗るエべき所へ^⑭渡る。かれこれ、^⑮知る^⑯知らオぬ、送り^⑰す。年ごろよく
比ベ^カつる人々なむ、別れ難く^⑯思ひて、日しきりにとかく^⑲しつつ、^⑳ののしるうちに、
夜^㉑更け^キぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときざね、船路^クなれど、

馬のはなむけ^㉔す。上中下、^㉕酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、

^㉖あざれあへケり。

二十三日。八木のやすのりと^㉗いふ人^㉘あり。この人、國に必ずしも^㉙言ひ使ふ者にも^㉚あら
ござ^サなり。これぞ、たたはしきやうシにて、馬のはなむけ^㉛し^スたる。守柄^セにや^㉜あらソム、

国人の心の常として、「今は。」とて^㉝見え^タぎ^チなるを、心^㉞ある者は、^㉟恥ぢ^ツずになむ

^㉟来^テける。これは、物に^㉟よりて^㉟褒^ムるトにしも^㉟あらナズ。

二十四日。講師、馬のはなむけ^㉛しに^㉛出でませ^ニり。^㉛ありと^㉛ある上下、童まで^㉛酔ひ痴れ
て、一文字をだに^㉛知らヌ^ム者、しが足は十文字に^㉛踏みてぞ^㉛遊ぶ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「土佐日記 ～門出～」解答

サ変終

伝聞

ハ四体

サ四用 マ上一末 意志

サ変体 断定

男も^①す^アなる日記と^②いふものを、女も^③して^④み^イむとて、^⑤する^ウなり。

書きつく。
サ下二終

タ下二用

ハ下二用

ラ四用

マ四体

ある人、県の四年五年^⑧果てて、例のことどもみな^⑨し終へて、解由など^⑩取りて、^⑪住む館

ダ下二用

ラ四終

当然

ラ四終

ラ四用

サ四用 ラ四末 打消

サ変終

マ四用

より^⑫出でて、船に^⑬乗る^エべき所へ^⑭渡る。かれこれ、^⑮知る^⑯知らオぬ、送り^⑰す。年ごろよく

バ下二用 完了

ハ四用

サ変用

ラ四用

マ四用

比べ^カつる人々なむ、別れ難く^⑯思ひて、日しきりにとかく^⑰しつつ、^㉑ののしるうちに、
夜^㉒更け^キぬ。

カ下二用 完了

ハ四用

サ変用

ラ四用

マ四用

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願^㉓立つ。藤原のときざね、船路^クなれど、

サ変終

カ四用

タ下二終

ハ四用

断定

ラ四用

馬のはなむけ^㉔す。上中下、^㉕酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、

ハ四用

存続

カ四用

タ下二終

ハ四用

ラ变終

マ四用

あざれあ^ヘケり。

打消

推定

ハ四用

ラ变終

ハ四用

ラ变終

マ四用

コ^ガザ^ナり。これぞ、たたはしきやう^シにて、馬のはなむけ^㉛し^スたる。守柄^セにや^㉜あら^ソむ、

ヤ下二用

打消

伝聞

タ下二終

ハ四用

ラ变終

マ四用

国人の心の常として、「今は。」とて^㉙見え^タぎ^チなるを、心^㉚ある者は、^㉛恥ぢ^ツずになむ

カ变用

過去

ハ四用

ラ变終

マ下二用

断定

ラ变未

二十四日。講師、馬のはなむけ^㉛しに^㉜出でませ^ニり。ありと^㉝ある上下、童まで^㉞酔ひ痴れ

サ变用

ダ下二用

完了

ラ变用

ラ变用

ラ变用

ラ下二用

て、一文字をだに^㉟知ら^ヌぬ者、しが足は十文字に^㉟踏みてぞ^㉟遊ぶ。

ラ四用

打消

マ四用

バ四用

マ四用

バ四用

ラ四用